



紀平真理子のオランダ通信

第35回

Holland Gaas社の 防虫ネット

プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペイン語学専攻卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてに実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

昨今のヨーロッパでは規制と顧客要求により「減農薬」「無農薬」で栽培することは避けて通れないため、多くの園芸施設では天敵昆虫が活用されている。その際に使用される天敵昆虫や交配用のマルハナバチを外に逃がさないため、またコナジラミ、スリップスなどの害虫対策のために換気部に張るネットが活用されている。

日本では外来種のマルハナバチの使用申請時にネット展張が必要だが、オランダではその規制はなく、ネットの使用は10%程度にとどまる。しかし現在は、施設を建設する際、GLK (Green Level Kosten) により、換気部ネットやスクリーン、二重ガラスなど環境に良い設備を導入するとポイントが付与され、ポイントに応じて補助金を受けられるようになったため、普及が期待されている。

換気効率と遮光範囲最小化

今回訪問した Westland にある施設園芸ネットメーカー Holland Gaas 社は オランダ国内のみならず、ヨーロッパ域内、米国、カナダ、トルコ、メキシコ、韓国そして日本など 31 カ国に製品を輸出している。換気部ネットの課題はできる限り換気を妨げないことと遮光範囲を最小限にすることだ。



Marcel Schulte氏。さまざまな種類のスプラウトの栽培を行ない、基本的にレストラン、外食産業のみに販売している Koppert Cress社の増設分約2haの施設には1,000の換気部に換気効率のよい統合ハーモニカシステム(大屋根型、フェンロー型、ハイテクプラスチックグリーンハウスに適用可)を採用

同社の蛇腹型の統合ハーモニカシステムは折りたたんだ際の遮光範囲が少なく、ネットの表面積を増やすことで換気効率上がるようデザインされているそう。あらかじめ温

室の屋根部材を同社システムが取り付けられる構造にしておく非常に簡単に施工できる。

ちなみに、同社マネージングディレクター Marcel Schulte氏は「フェンロー型温室の場合、日本市場では統合ハーモニカシステムを2から4の窓枠ごとに設置。ハイテクプラスチックハウスの場合は長



ネットは水圧ホースで洗浄し、長期間使用できる(耐用年数は紫外線の強さによって異なるが、オランダでは15年程度とされている)

く連なっている同システムの設置が合っているのではないかと話す。

ネットの目合いは生産者の戦略次第

ネットの目合いは標準で12種類ある。同氏は「目合いについては生産者の戦略次第だ」と語る。一例だが、コナジラミ対策としてネットを用いる場合、目合いの種類0.4×0.45mmを選択することもできるが、羽部を除いた胴部のサイズを考慮し、より換気効率の良い0.4×0.7mmの目合いを選択する生産者もいるという。

また、南フランスでは4月はコナジラミ対策で天窓部にネット展張するが、同社のネットは接続部がラバーでできており、ネットの取り外しが簡単に行えるため、作物が強くなった夏にはラバー部を取り外し換気部を開放している生産者も多い。これは害虫より換気不足のほうが収量減を引き起こすからだそう。「生産者は各々の戦略とロジックに基づいて最終的には自己責任で物事を決定している」